

アルギン酸でサステナ賞

国内唯一のアルギン酸メーカーのキミカ（東京都中央区、笠原文善社長）は11月の環境省の「グッドライフアワード」など、この1年間で5度、サステナビリティ（持続可能性）に関する賞や認定を受けた。産業界が国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成に取り組む中、漂着海藻から抽出するアルギン酸が注目されているためだ。今後の事業展開を笠原社長に聞いた。

「アルギン酸が注目 抽出後に残る海藻残渣も土壌改良材として活用されています。」
「浜辺に打ち上げられた海藻は食用に適さず、未利用のままでは腐敗する。これを買い取ることで、漁民の生活水準向上にもつながる。チリ工場では砂漠に面する地の利を生かし、電力を消費せずに海藻を乾燥・保管し、

業者の笠原文善も事業資源循環型にしないと言っていた。あらや製品が高く評価され、さまざまな分野で

漂着海藻 利用拡大

取引先と用途開発

活用されています。

「パンや麺の食感を向上したり、きめ細かく消えにくいビールの泡をつくったりするなど、食品を中心に医薬や化粧品素材として活用されている。最近では代替肉として注目を浴びています。」

「大豆ミートの結着用や、これまで動物の腸からつくっていたソーセイジの皮用素材など、今後も需要の増加が期待できます。」

「サステナビリティの面からさらには、SDGs関連で商品開発を進める食品メーカーなどから相談がある。今後は滑らかな粘性があるとともに、耐熱性があり、熱しても形が崩れないなど優れた特徴を積極的にアピールしていきたい。」



キミカ社長

笠原文善氏

「大豆ミートのようにアルギン酸を活用すれば植物由来の肉がつけられる。アルギン酸に関する総合的な技術サービスを提供して、くる年にしたい。」

「大豆ミートのようにアルギン酸を活用すれば植物由来の肉がつけられる。アルギン酸に関する総合的な技術サービスを提供して、くる年にしたい。」

「大豆ミートのようにアルギン酸を活用すれば植物由来の肉がつけられる。アルギン酸に関する総合的な技術サービスを提供して、くる年にしたい。」

「大豆ミートのようにアルギン酸を活用すれば植物由来の肉がつけられる。アルギン酸に関する総合的な技術サービスを提供して、くる年にしたい。」

記者の目

技術力「聞く力」が不可欠

「吹いている。風に乗るには国内90%超のシェアに満足せず、アルギン酸の用途開発を進める必要があり、技術力に加え「聞く力」が不可欠。今まで以上に取引先ニーズに耳を傾けることで、自社では気付かなかった用途が生まれる可能性がある。（編集委員・中沖泰雄）